

11 農の未来を討論

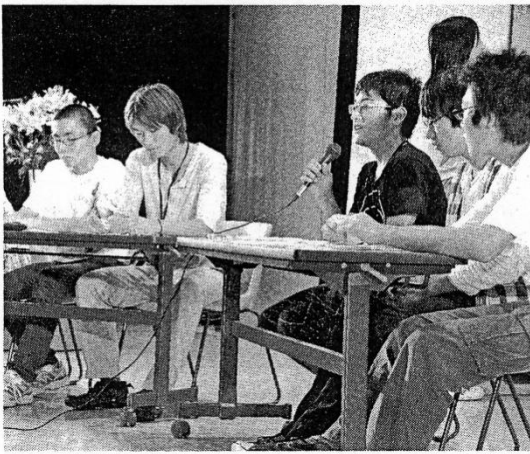
全国の7大学で農業を学ぶ学生が、秋田県立大学に集まり、初の全国農業系学生フォーラムを開き、地域興しなどについて語り合った。



2009.9.7 日本農業新聞 11面 引用

若い力で農業貢献

秋田で全国
学生フォーラム
地域興し熱く語る



農業を学ぶ大学生が農村の将来について話し合った
討論会（6日、秋田市で）

若い力は農業にどう貢献できるのか……。全国7つの大学で農業を学ぶ学生が6日、秋田市の秋田県立大学に集まり、公開討論会「第1回全国農業系学生フォーラム」を開いた。同大の学生が中心になって企画し、今回初めて開催。限界集落の解決策などを探った。

同大のほか、北海道大、山形大、宮城大、東京農業大、京都大、大阪府立大で農学部や農業サ

ークルに所属する学生が参加。会場に集まった地域の農家や、大学の研究者、農業高校の生徒ら約

100人からの意見を交えながら討論した。討論は、高齢化する農村のために何ができるかがテーマ。限界集落化の防止には「集落の住民が気付かない魅力を、外部の若い人が入って発見することが重要」という意見が相次ぎ、「その地域にしかない資源を発掘

し、地域に根差した産業の起業を手助けする団体を作りたい」「行政やJAが農業法人を作って雇用や農地を守るべきだ」といった声があった。また「子育て環境を重視する30代以上の世代を呼び寄せる」など農村定住者を増やす案が出る一方で、「自分が農村に住

めと言われれば困る」と悩む学生もいた。主催した秋田県立大「薫風・満天フィールド交流塾」の植田行則さん（20）は「農業を学んでいるのに、学生は自分のちの農業への思いを発信する場が少ない。この会を定着させていきたい」と語った。